

寺院経営を 解剖する

埼玉・熊谷市 見性院

うちの すべて

寺の収入 見せます

0軒がほぼそのまま信徒に移行し、これに分譲墓地を求めた人が加わり現在は信徒が550軒ほどいる。永代供養塔の布施は、33年間個別保管プランが33万円、10年間個別保管プランが10万円、合同納骨(合祀)プランが3万円など。現在、合祀で約300、個別では200の預かりがある。お盆の供養料の収入は、信徒と永代供養塔の利用者を合わせて約500万円。葬儀収入は約2500万円。檀家制度廃止前から、葬儀社を入れずに寺自らが葬式を執り行つてきたが、墓地分譲も石材業者や靈園業者を介在させず、寺院の事業として行つ墓地分譲ほどに増えた。

ようにした。約25件の分譲で収入は約2500万円。そのうち約半数は墓石も売る。寺院墓地では指定石材店が決まっていることがほとんどだが、見性院にそうした決まりはない。逆に、「直接仕入れをしており、市内の石材店から買うより3割くらい安いはず」(橋本住職)という。それでも墓石販売の利益率は相対的に高いといふ。もちろん墓地は非課税だが、墓石販売は課税対象だ。

こうした収入と支出の差額は77万円、これが見性院の黒字額になっている。橋本住職によると、寺を継いでいるというから、石材店のうまいはどうはどか。ちなみに墓地は非課税だが、墓石販売は課税対象だ。

「旧檀家からの布施は全収入の3分の1になり、経済的にも檀家寺ではなくなくなった。檀家から自立する」と、住職が新しい布教のあり方や宗教的実践を摸索できるようになる。それが21世紀型の新しい寺院制度になるはず」と橋本住職は時代へ対応の必要性を説く。「收支を明らかにするのはほかの住職の背中を押すため。寺院の維持が難しい時代だから、私ができるのだから賛同者がもつと出てきてほしい」と話している。

檀家制度をなくしたが収入は拡大 (2014年4月~15年3月の収支決算)

支出の部

項目	金額
法要費	5432万円
教化育成費	31万円
寺院維持費	
租税公課	37万円
宗派課金	59万円
管轄修繕費	205万円
保険料	119万円
福利厚生費	133万円
寺院運営費	
事務費	26万円
賃借料	128万円
運賃	14万円
交際接待費	106万円
水道光熱費	215万円
旅費・車両費	68万円
通信費	64万円
広告宣伝費	343万円
支払手数料	218万円
給料	1307万円
雑給	24万円
賞与	114万円
法定福利費	181万円
その他など	
支出合計	9210万円
総収支戻	778万円
778万円の黒字	

収入の部

項目	金額
布教活動収入	
信徒(旧檀家+新しい信徒)の葬儀、法事の布施	2000万円
永代供養塔利用者の布施	1900万円
お盆の供養料(信徒+永代供養塔利用者)	500万円
葬儀	2500万円
墓地の分譲	2500万円
資産収入	246万円
その他収入	329万円
布施は30万円、40万円、50万円の3段階にして大衆化	
永代供養塔が収入源に。個別に保管する期間などによって料金に違い	
約35件。檀家制度時代と比べると葬儀回数は約2倍に	
約25件の分譲。そのうち約半分は墓石も売る	
支出合計	9988万円



門の左脇にあるのが永代供養塔。遠方や体の自由がきかない人のために「ゆうパック」でも遺骨を受け付ける

檀家制度を廃止したのも大胆だが、それだけでなく布施や戒名などを標榜しているのだ。橋本英樹住職(49)は、「江戸時代新書の中での寺院経営の収支の公開までしてしまった。ガラス張りの経営から続く家を中心とした檀家制度は

檀家制度を廃止したのも大胆だが、それだけでなく布施や戒名などを標榜しているのだ。橋本英樹住職(49)は、「江戸時代新書の中での寺院経営の収支の公開までしてしまった。ガラス張りの経営から続く家を中心とした檀家制度は

檀家制度を廃止したが旧檀家約400軒がそのまま残った」というのがふさわしいはず」と話す。父親である先代住職から寺を継いだのが2007年。以後、自分の理想とする寺を目指し、12年に檀家制度廃止に踏み切った。「檀家制度はお布施の強要システムになつていて。他方で、寺もすべて檀家に頼つて立的であるべきだ」と考えたからだ。

檀家制度は廃止したが旧檀家約400軒がそのまま残った」というのがふさわしいはず」と話す。父親である先代住職から寺を継いだのが2007年。以後、自分の理想とする寺を目指し、12年に檀家制度廃止に踏み切った。「檀家制度はお布施の強要システムになつていて。他方で、寺もすべて檀家に頼つて立的であるべきだ」と考えたからだ。

檀家制度を廃止したが旧檀家約400軒がそのまま残った」というのがふさわしいはず」と話す。父親である先代住職から寺を継いだのが2007年。以後、自分の理想とする寺を目指し、12年に檀家制度廃止に踏み切った。「檀家制度はお布施の強要システムになつていて。他方で、寺もすべて檀家に頼つて立的であるべきだ」と考えたからだ。

2015.8.8-15 週刊東洋経済

寺

離れ」「墓じまい」といつた言葉が普通に使われるようになった。それだけ寺にとっては大変な時代になったことを意味している。ところがそんな逆風の中、あえて檀家制度を廃止して、独自の「信徒制度」に切り替え經營基盤を拡大させている寺がある。埼玉・熊谷市にある曹洞宗見性院だ。

檀家制度を廃止したのも大胆だが、それだけでなく布施や戒名などを標榜しているのだ。橋本英樹住職(49)は、「江戸時代新書の中での寺院経営の収支の公開までしてしまった。ガラス張りの経営から続く家を中心とした檀家制度は

檀家制度を廃止したが旧檀家約400軒がそのまま残った」というのがふさわしいはず」と話す。父親である先代住職から寺を継いだのが2007年。以後、自分の理想とする寺を目指し、12年に檀家制度廃止に踏み切った。「檀家制度はお布施の強要システムになつていて。他方で、寺もすべて檀家に頼つて立的であるべきだ」と考えたからだ。

檀家制度を廃止したが旧檀家約400軒がそのまま残った」というのがふさわしいはず」と話す。父親である先代住職から寺を継いだのが2007年。以後、自分の理想とする寺を目指し、12年に檀家制度廃止に踏み切った。「檀家制度はお布施の強要システムになつていて。他方で、寺もすべて檀家に頼つて立的であるべきだ」と考えたからだ。

2015.8.8-15 週刊東洋経済